

鹿児島大学元留学生フォローアップ調査中間報告 平成19年度(2007)

国際戦略本部 プログラム・オフィサー / 准教授
有澤 尚志

はじめに

これまでも鹿児島大学を始め多くの大学で在学中の留学生に対するアンケート調査が行われてきたが、既に大学を去った者、すなわち元留学生について、その後の状況等について追跡調査を行ったものは数少ないようである。

国際戦略本部では、元留学生の現状及び意識を知ると共に、彼らのネットワークを構築することを目的に、過去10数年間の間に本学を去った元留学生を対象に、連絡先を調査すると共に、アンケート調査を実施した。

元留学生の現住所等、連絡先について既存のデータが少ないため、連絡先の調査を行いながら、連絡先が判明した者に対しアンケートを発送し依頼するという方法を取らざるを得なかったが、予想していたよりは多くの反応があったと感じている。

この調査結果は、元留学生の視点からの大学評価でもあり、大学院段階の教育・研究に対する受け手側からの評価も含まれている。また、元留学生からの研究活動支援等に関する要望、ニーズに関する状況も示されており、ネットワークを通じて彼らと連携して国際共同研究等の活動を展開していく上で、一つの参考資料になると思われる。

今回、中間報告書として作成したが、データを精査することにより、より詳細な実態が解明できると思われる。

なお、「調査結果の概要」に示された見解は、集計・分析を行った有澤個人の見解であることをご承知願いたい。

II 調査の目的と方法

1. 調査の目的

鹿児島大学に在籍した元留学生の本学での留学経験とその成果について、満足度、留学の目標達成度、現在の職業生活における留学の成果の活用状況等、彼らの実情や考え方について総合的なアンケート調査を行う。

この調査で得られたデータについて、本学の現役留学生に対する教育やサービスの改善・充実、及び本学を離れた元留学生に対するフォローアップ活動のあり方に関して全学的に検討するための基礎資料として活用する。

さらに、アンケート回答者のうち、希望者を対象にメーリング・リストを作成し、元留学生のネットワーク構築を図る。

2. 調査方法等

1) 調査票

調査票の作成に当たっては、以下の調査を参考にした。また、回答者の使用言語を考慮し、英語版及び中国版の調査票を作成し送付した。

- ・鹿兒島大学留学生センター・平成18年度鹿兒島大学留学生アンケート調査報告書
- ・筑波大学・帰国中国人留学生の比較追跡調査による留学生教育の改善と展望に関わる研究(平成6～8年度、研究代表者:同大学留学生センター 遠藤 誉 教授)
- ・China's Brain Drain to the United States Views of Overseas Chinese Students and Scholars in the 1990s (David Zweig and Chen Changgui)

2) 調査対象及び人数

1994(平成6)年度以降の各年度ごとの本学の留学生名簿を基に、1994(平成6)年度から2006(平成18)年度末までに卒業ないし退学により本学に在籍しなくなった者(元留学生)の一覧リストを作成。そのうち、鹿兒島大学連合農学研究科在籍で、佐賀大学、宮崎大学、琉球大学に通学していた者を除く847人をアンケート対象者とした。

この対象者について現在の連絡先(住所ないしEメール・アドレス)について調査した。2007年(平成19年)8月頃から2008年(平成20年)1月末にかけて、連絡先が確認できた者から順次、Eメール又は郵送によりアンケート調査票を送付し、回答を依頼した。のべ359人に対し調査票を送付し、うち132人から回答を得た。(集計結果概要A2を参照)

3. 作業及び協力者

元留学生リスト及びアンケート調査票の作成及び送付、回収、集計は国際戦略本部の有澤が担当した。

調査票作成や元留学生の連絡先確認のための方法等に関して、大嶋留学生センター長を始め本学留学生センターのスタッフの方々から多大なご指導、ご協力を頂いた。大嶋センター長から元留学生のレーマン・ハフィーズ・ウル氏(鹿兒島大学客員研究員、パキスタン出身)を紹介してもらい、彼に調査票のモニター及び英語版の翻訳チェックにご協力頂いた。

元留学生の連絡先調査について、留学生及び本学所属中の元留学生の方々にご協力頂いた。レーマン・ハフィーズ・ウル氏にはパキスタンに加えマレーシア出身者について、それから宿金語氏(中国出身)、ヤワパクソボン ダララック氏(タイ出身)、グエン チュン ヒュー氏(ベトナム出身)、ジョージ ムサリア氏(タンザニア出身)、サルポノ氏(インドネシア出身)、イクバル カーン モハマド氏(バングラディッシュ出身)、モンテシロ メンチェ イジス氏(フィリピン出身)にはそれぞれ出身国の元留学生について調査をお願いした。

これらの協力者の方々でも連絡先がわからない者、それに適当な協力者が見つけれなかった国の出身者については、有澤がインターネットを用いたり、学内各部局の関係者に個別に問合せするなどして可能な限り把握に努めた。それでも連絡先がわからない者について、学内各部局の元指導教員等に照会するという方法も考えられるが、時間的制約上、そこまではできなかった。

なお、元留学生の連絡先に関する情報、回収されたアンケートの内容については、個人情報保護に配慮した上でデータベース化してある。

また、留学生名簿の提供、協力者への作業委嘱などに当たり、国際事業課及び留学生課の方々に多大なご協力を頂いた。調査票記入に協力してくれた元留学生の皆様に併せて、これらの方々に厚く御礼を申し上げる。

III 調査結果の概要

A あなた自身について(回答者の属性) 回答者総数 132人

A2) あなたの出身(生まれた)国

回答者は中国が最も多く、以下、インドネシア、フィリピンの順。留学後、国籍を変更している者が若干いるが、変更前の国籍で捉えた。

中国53人、インドネシア:13人、フィリピン:9人、タンザニア:7人、
タイ:5人、パキスタン:5人、

その他37人(韓国、ベトナム、カンボジア、マレーシア、ミャンマー、バングラデシュ、イラン、ヨルダン、トルコ、スペイン、エジプト、カメルーン、モーリタニア、ザンビア、アメリカ、メキシコ、パナマ、コロンビア、グアテマラ、ブラジル、ペルー、アルゼンチン)

この追跡調査では、過去の留学生名簿を基に把握したアンケート対象者のうち、連絡先が確認できた者についてEメール又は郵送によりアンケートを送付するという方法により実施したが、元留学生同士の間関係がほとんどないといった理由により、連絡先確認が困難な国もあった。また、アンケートを送付しても回答率の状況は国によって異なる。

参考までに、アンケート対象者、発送、回答の状況を示す。

出身国	対象者	アンケート発送	回答受領
中国	314	131	53
韓国	80	15	2
インドネシア	60	40	13
マレーシア	41	11	2
バングラデシュ	37	25	4
ブラジル	37	5	4
その他	278	132	54
合計	847	359	132

A3)性別 a)男性 93人 b)女性 39人

A4)年齢

a)21 - 30 歳:17人 b)31 - 40 歳:59人
c)41 - 50 歳:51人 d)51 歳以上:5人

A5) 鹿兒島大学の学生だったときの経歴

博士号取得者が、比較的、連絡先を確認し易かったこともあり、博士課程院生として在籍した者がかなりの数(99人)に達する。98人のうち46人は、学内の修士課程からの進学者である。

(在籍した課程) 重複するため合計は132人を上回る。

博士課程院生に在籍	99人
修士課程院生に在籍	60
その他、学部生、研究生等に在籍	52
修士 博士内部進学者	46人

(最後に所属した研究科・学部)

連合農学研究科(博士):51人(うち農学系26人、水産系25人)
 医歯学系博士課程:24人、工学系博士課程:18人、農学部・特別聴講学生:7人、
 水産学研究科(修士):4人、理学系博士課程:3人、人文・社会系修士課程:3人、
 教育学修士課程:3人、その他:16人

(本学に在籍した最終年度)

1993～1995年度	6人	1996～1997年度	15人
1998～1999年度	12人	2000～2001年度	18人
2002～2003年度	20人	2004～2005年度	31人
2006～2007年度	30人		

B 留学した理由と選択について

日本留学の理由(B1)について、「専門分野の学習・研究」「高学歴の取得」「日本政府の奨学金受給」の順に多い。

日本の大学の中で鹿兒島大学を選択した理由(B2)について、「指導教員がいた」が最も多い。

他国あるいは他大学への留学を希望していたがやむを得ず、という不本意入学に相当するものは比較的少なかった。

B1) あなたはなぜ、日本に留学したのですか(複数回答可)

a) 日本政府の奨学金を得たから。	74人
b) 自分の専門分野の学習または研究をしたかったから。	98
c) より高い学歴を得たかったから。	87
d) 日本への留学が就職に有利だと思ったから。	35
e) 日本の言語、文化について学びたかったから。	40
f) 母国の教員、知人などから日本留学をすすめられたから。	34
g) 日本以外の国への留学を希望していたが、その機会がなかったから	6
h) その他(交換留学生として、など)	11

B2) あなたはなぜ、日本の大学の中で鹿児島大学を選んだのですか?(複数回答可)

a)日本政府(文部科学省)または自国政府の決定による	38人
b)鹿児島大学の入学試験に合格したから	17
c)指導教員がいたから	84
d)協定校だから	32
e)鹿児島は生活しやすいと聞いたから	18
f)日本国内の他の大学への留学を希望していたが、その機会がなかったから。	11
g)その他	19

「g)その他」の内容

- 1.鹿児島大は大きな国立大学で、とても良いと聞いた。(法文)
- 2.来日前に鹿児島大の指導教員と面識があり、彼と研究プロジェクトを実施したかった。(理学)
- 3.鹿児島大の指導教員と面識があった。彼は私の研究分野における権威だった。(理学)
- 4.京都大学の学生だったが、癌疫学研究は東大より鹿児島大の方が優れていると思った。また、自分の指導教員は英語を流暢に話せた。(医学)
- 5.自国の指導教員がこの教授と共同研究を行っていた。(医学)
- 6.私は自国で HTLV-1 及び HTLV-I 関連脊髄症を研究していた。このウイルスと病気は私の故郷に蔓延している。しかし、病気とその研究について経験がなかった。鹿児島大は入学するには最善のところだった。(医学)
- 7.鹿児島大のウイルス学科は、HLA(ヒト白血球型抗原)とウイルス学を扱う数少ない研究室の一つだ。その上、指導教員がアンデス山地人のサンプルで研究を行っていた。(医学)
- 8.鹿児島大の指導教員は熱帯エコロジー分野での先導的な教授だったから(農学)
- 9.私の兄弟がここを推薦し、指導教員が私を受入れてくれたから。(農学)
- 10.鹿児島大水産学部教員の論文を読んでいて、栄養化学を専攻したかった。また、南日本に位置する鹿児島はあまり寒くない。(水産)
- 11.鹿児島大学水産学部の研究者だった友人のアドバイス等によって(水産)

B3) 鹿児島大に留学した結果、自分の目標を果たすことができましたか?(複数回答可)

アンケート回答者の大多数が博士課程に在籍したことがある者だから当然でもあるが、最終的に博士の学位を取得した者が回答者111人中92人である。

a)学位を得ることができた。	112人
(内訳)最終的に博士の学位取得(本学の修士課程修了者を含む)	93
最終的に修士の学位取得	17
最終的に学士の学位取得	2
b)専門の勉強ができた	97
c)日本語・日本文化を学ぶことができた	80
d)その他	9

B4)あなたが初めて鹿児島大学に入学したとき、すでにどのような学歴をもっていましたか？

自国で大学学部段階を卒業していたとする者(医師の資格取得者を含む)が最も多く、修士段階卒業者がそれに次ぐ。

a)高校を卒業していた。	3人
b)大学の学部を卒業していた、あるいは学士号(Bachelor)を得ていた	71
c)大学院修士号(M.A.または M.S.など)を得ていた	45
d)その他(学部交換留学で来た、など)	13

C. あなたが鹿児島大学の学生だったときのことについて

C1)あなたが受けた学部または大学院の授業・講義全体について、どのように思いましたか？

	そう思わない		そう思う	
	1	2	3	4
)内容が充実していた	1	2	3	4
平均 3.2 (130人回答)				
)理解しやすかった	1	2	3	4
平均 3.0 (125人回答)				

内容の充実度や授業等の理解度については、概ね良い評価である。

しかし、理由・意見として挙げられたものを見ると、留学生にとって言葉の壁が最大の問題である。

- ・授業や指導の多くが日本語で行なわれるため、日本語が不得意な学生にとって理解しづらい。
- ・教員が英語で説明しようとしない、
- ・短期間の日本語予備教育だけでは専門の授業についていくのには不十分、
- ・特に専門・技術的な用語について日本語だと理解しづらい、など

専門用語を英語に訳して説明したり、要点について英語で示した資料を渡してくれれば理解し易いとの指摘もあった。(資料C1参照)

(入学年次と授業内容の充実度、理解度との関係)

95年以降の入学者が、それ以前の入学者に比べて評価が少し高くなっている。

	人数) 内容が充実) 理解し易い
1994年以前入学	36	2.9(36人回答)	2.5(33人回答)
1995～99年入学	41	3.3(41人回答)	3.3(39人回答)
2000年以降入学	55	3.3(53人回答)	3.0(53人回答)

C2) 鹿児島大学の施設や留学生への支援について、どのように思いましたか？

	そう思わない	1	2	3	4	そう思う
) 教育や研究のための施設はよかった。		1	2	3	4	
平均 3.4 (129人回答)						
) チューター制度のような留学生への教育支援はよかった。		1	2	3	4	
平均 3.1 (125人回答)						
) 留学生に対する日本語、日本文化の教育はよかった。		1	2	3	4	
平均 3.2 (125人回答)						
) 留学生に対する事務サービスはよかった。		1	2	3	4	
平均 3.3 (128人回答)						

各項目とも概ね肯定的な評価ではあるが、理由、意見として挙げられたものには、チューター制や日本語教育に対する不満、それに英語を話す事務職員が少ないという指摘があった。

(資料C2参照)

(入学年次と施設や支援的サービスへの評価との関係)

日本語教育について、最近の入学者の方が若干、評価が高くなっているが、全体的に大きな変化はない。

	人数) 施設) 教育支援) 日本語教育) 事務
1994年以前入学	36	3.3 (36人回答)	3.1 (35人回答)	3.0 (33人回答)	3.2 (35人回答)
1995～99年入学	41	3.6 (40人回答)	3.1 (40人回答)	3.1 (40人回答)	3.3 (41人回答)
2000年以降入学	55	3.5 (53人回答)	3.1 (50人回答)	3.3 (52人回答)	3.3 (52人回答)

C3) 鹿児島大学の学生だったときの経済的状況について

	いいえ	1	2	3	4	はい
) 当時、経済的に苦しかった		1	2	3	4	
平均 2.0 (130人回答)						

)あなたは何かのアルバイトをしたことがありましたか?

- a) はい(あった) 60人
b) いいえ(なかった) 66人 (126人回答)

「a)あった」と答えた方だけに伺います。アルバイトに多くの時間を取られ学習・研究の時間が不足するようなことがありましたか?

いいえ はい
1 2 3 4

平均 1.9 (57人回答)

C4)日本語が不十分なため不便を感じたことがよくありましたか?

いいえ はい
1 2 3 4

平均 2.2 (130人回答)

平均して、日本語が不十分でもそれほど不便を感じたことはないという評価である。理由・意見として挙げられたものによると、学習・研究において教員や日本人学生とのコミュニケーションに不便を感じている者がかなりいる。周囲が日本語の不自由な留学生に対し協力的かどうか、学習・研究において日本語の読み書きが多く必要とされるかによっても変わってくる。(資料C4参照)

(日本語能力による不便度、授業理解度、日本語教育に対する評価との相互関係)

日本語能力による不便度(C4)の評価段階ごとに、授業理解度(C1 -)、日本語教育に対する評価(C2 -)の平均値を比較した。

日本語が不十分なため不便と感じているものほど、授業が理解しにくく、かつ本学の日本語教育を評価していない傾向が見られる。

C4)日本語不十分なため不便 1(不便でない)	C1 -)授業等が理解し易い 4(理解し易い)	C2 -)日本語教育がよい 4(よい)
1.0~ (41人回答)	3.3(38人回答)	3.4(38人回答)
2.0~ (33人回答)	3.1(31人回答)	3.0(32人回答)
3.0~ (40人回答)	2.7(39人回答)	3.1(39人回答)
4.0 (18人回答)	2.4(17人回答)	2.8(16人回答)

次に、日本語教育に対する評価(C2 -)の段階ごとに授業理解度(C1 -)の平均値とを比較した。

本学の日本語教育に対する評価の程度が高い方が、授業理解度の評価も若干、高くなる傾向が見られるが、それほど大きな差ではない。授業理解度には日本語能力以外の要因も関わってくるからであろう。

C2 -)日本語教育がよい 4(よい)~1(悪い)	C1 -)授業等が理解し易い 4(理解し易い)~1(理解しにくい)
1.0~ (3人回答)	3.0(2人回答)
2.0~ (21人回答)	2.6(21人回答)
3.0~ (54人回答)	3.0(52人回答)
4.0 (47人回答)	3.2(45人回答)

C5)鹿児島島の風土や人々について良い印象をもちましたか？
いいえ はい
1 2 3 4

平均 3.6 (131人回答)

C6)鹿児島島について、あなたが思ったこと、感じたことについて自由に記入してください。

鹿児島島という土地に対しては、全体的にかなり良い評価である。

地元の人々が留学生に対し友好的だった、大都市ではないが落ち着いていて物価が安いなどの理由で住みやすい、おはら祭り等のイベントに参加したり桜島などのすばらしい風景に出会うことができた、といったことが挙げられている。(資料C5,6参照)

C7)全体的にみて鹿児島大学に留学してよかったですか？

そう思わない そう思う
 1 2 3 4

平均 3.6 (132人回答)

概ね肯定的な評価であり、理由として、熱帯生態学や水族栄養学など特定の分野について鹿児島大は非常に優れていたことが挙げられている。その一方、自分の勉強したかった分野がないなどの不満も幾つか見られる。(資料C7参照)

C8) 鹿兒島大学の留学生への教育・サービスについてのご要望、ご提案があれば、おねがいます。(自由記述)

専門教育の内容・方法に関する意見が最も多く、その中でも英語による授業・セミナーの拡充を求めるものが多い。また、工場訪問等、産業界との連携による教育プログラム、博士課程におけるセミナー等の教育手法の改善を求める意見もあった。

また、大学の留学生居住施設の拡充、日本語教育の充実・強化、奨学金の拡充、留学生に対する就職支援などの意見が出されている。(資料C8参照)

次の2つの質問は、大学院生であった方だけ教えてください。

C9) あなたの指導教員についてどのように思いましたか？

	そう思わない		そう思う	
	1	2	3	4
) 指導内容が充実していた				
平均	3.5 (116人回答)			
) 指導がていねいで理解しやすかった				
平均	3.6 (116人回答)			
) 指導教員と主に何語で話していましたか？				
日本語: 57人	英語: 40人	日本語と英語の併用、混合: 19人		
(116人回答)				

留学中、大学院に在籍したことがある者に対し、指導教員による研究指導内容の充実度、及び内容の理解度について聞いてみたが、概ね肯定的な評価である。

理由・意見として挙げられたものによると、指導教員とのコミュニケーションが上手く行っているかが重要であり、必要に応じて英語と日本語を切り替えて使っている者も多い。

C10) 鹿兒島大学では修士または博士の学位を取ることが難しかったですか？(両方の学位を取った方は、両方に回答してください)

	難しかった		易しかった	
	1	2	3	4
) 修士の学位を取ったとき				
平均	2.9 (65人回答)			
) 博士の学位を取ったとき				
平均	2.4 (99人回答)			

研究科等によっても異なるが、概ね、修士課程は比較的簡単な反面、博士課程では学術雑誌への掲載等、研究論文の对外発表・公開を求められるため、比較的難しいとの意見が多く見られた。

実験用設備・機器が十分整備されていなかったり、あるいは台風のためサンプルとなる魚をなかなか入手できないといったような不可抗力によって、研究が円滑に進まず博士論文がなかなか出せないという問題点の指摘もあった。

また、連合農学研究科では、3年間に2本の論文という卒業要件は特に留学生にとって酷であり、要件を緩和してほしいとの意見が幾つか見られる。緩和する必要はないとの意見もある。

(資料C10参照)

D あなたが現在住んでいる国などについて伺います。

D1) 鹿児島大学に留学した後、現在に至るまで、あなたはどの国に住んでいましたか？

(現在、居住している国)

中国:35人、日本:22人、インドネシア:11人、アメリカ:10人、フィリピン:7人、
タンザニア:6人、タイ:5人、その他の国:36人 (計132人)

(現在、出身国に帰国している者)

132人中87人

D2) あなたの母国で、鹿児島大学留学の経験や成果を積極的に活用することを考えている、あるいはそうした予定がありますか？

a 考えている / 予定がある 115人(132人中)

具体的内容(自由記述)について、本学で取得した専門知識・技術を現在の仕事に活用しているという回答が多かった。例えば、高効率液体クロマトグラフィの利用による植物色素の分析技術、土壌汚染管理、太陽電池、マイクロカプセル化、水産加工プラントにおける保健衛生の改善、分子生物学におけるラボの技術、CIDRを用いた牛の follicular cysts の治療、歯列矯正器治療、日本の国語教育の手法、など。既に実施中との回答も少なくない。

しかし、帰国先が発展途上国である者のうち、問題点として、優れた先進的な研究機材の不足や予算の制約のために研究開発に支障が生じていることを挙げる者が少なくない。また、研究は金食い虫だという意識や、基礎科学研究に対する無関心など、自国政府の理解不足を挙げる者もいる。

自国では本学で学んだ専門知識を実践できる環境ではないため、今のところは先進国の大学・研究所で研究を続けているという者もいる。(資料D2参照)

D3) あなたの母国あるいは現在住んでいる国(日本を除く)と、日本との国際交流・国際協力活動に参加・協力したいというようなご希望がありますか。

a 希望がある 124人(132人中)

具体的内容(自由記述)について、鹿児島大等、日本の大学・研究所との共同研究を希望する者が非常に多い。大学の他、JICA(国際協力機構)、OECF(海外漁業協力財団)、JSPS(日本学術振興会)といった機関と連携することにより、既に共同研究を実施しているとの回答も少なくない。

共同研究とも関連するが、鹿児島大学を再訪し元指導教員と協同したり、専門知識・技術の更新・向上を図ることを希望する者もいる。

また、学生等の人的交流や文化交流を希望する者も少なくない。(資料D3参照)

E あなたの現在の職業について

E1) あなたの現在の職業は何ですか？1つだけ選択してください。

a)学生	7人
b)会社員	10
c)研究者 / 大学教員	90
d)公務員	7
e)小・中・高等学校などの教員	1
f)医療関係	7
g)その他	8 (回答者130人)

研究者・大学教員が圧倒的に多い。会社員、公務員と回答した者の中にも、研究・技術関連部門に勤務している者がかなりいるようである。

なお、回答者の勤務先・所属について、資料E1参照。本学卒業後、日本やアメリカの大学・研究所、企業で勤務している者も少なくない。

E2) 現在の職業を選んだのはなぜですか、次のうちから当てはまるものを選択してください。(複数選択可)

「専門分野の知識・経験の活用」が最も多い。反面、「日本語の能力や日本事情に関する知識の活用」は比較的少ない。多くの留学生にとって、専門知識の取得が日本留学の最大目標であり、日本語や日本事情について知ることは副次的な目標とされていることからすれば当然でもあるが。

a)自分の専門分野の知識・経験が仕事に活用できるから	103人
b)高い待遇ないし安定した収入が得られるから	41
c)将来有望な業種で自分の能力開発にも役立つから	34
d)日本語の能力または日本の事情に関する知識が仕事に活用できるから	27
e)職場の所在地、環境が自分にとって好都合だから	27
f)世間や社会の評判が高いから	35
g)知人や血縁者がいるから	3
h)その他	22

E3) 質問1)で「a:学生」以外を選択した方だけに伺います。

)現在の仕事についてから、どれくらいの期間になりますか？

a 1年以下	20人
b 1年～3年	26
c 3年～5年	14
d 5年以上	61 (121人回答)

)現在の仕事に満足していますか？

		不満		満足
a 給与または収入	1	2	3	4

平均 2.6(118人回答)

b 仕事の内容	1	2	3	4
平均 3.3(117人回答)				
c 職場における地位	1	2	3	4
平均 2.9(116人回答)				
d 人間関係	1	2	3	4
平均 3.2(116人回答)				
e 全体的に	1	2	3	4
平均 3.1(117人回答)				

現在の仕事に対する満足度について、全体的にはやや満足。仕事の内容と人間関係に関する満足度が比較的高い反面、地位や給与・収入に関する満足度はやや低い。

)鹿兒島大学留学の経験や成果が現在のあなたの仕事に役立っていると思いますか？

a 留学で得た知識・経験が今の仕事に役立っている。	1	2	3	4
平均 3.4(117人回答)				
b 鹿兒島大学で得た学位が職場における地位や給与などの待遇において高く評価されている。	1	2	3	4
平均 2.9(112人回答)				
c 日本語の能力または日本の事情に関する知識が自分の仕事に役立っている	1	2	3	4
平均 2.6(116人回答)				
d 留学を通して得た人脈が自分の仕事に役立っている。	1	2	3	4
平均 2.8(110人回答)				

各問のうち、「留学で得た知識・経験」について、今の仕事に役立っていると回答した者が比較的多いの 비해、「鹿兒島大学の学位」「留学を通じて得た人脈」「日本語の能力・日本事情に関する知識」については、中間的な評価である。

F 留学後における鹿兒島大学との学術交流活動に関することについて伺います。

現在、大学教員などとして鹿兒島大学に勤務している方は回答する必要がありません。

F1)元留学生に対し、鹿兒島大学がこんな支援、サービスを行ってくれればありがたいというようなご希望がありますか。ご自由に記入してください。

元留学生が鹿兒島大学を短期間訪問し、元指導教官と、あるいは所属していた研究室で共同研究などを行なうことにより、先進的な知識・経験を身につけさせるような活動を実施・支援してほしいという要望がかなりの数に上る。特に途上国出身者に多い。

また、日本からの学術情報・資料の提供、大学ニュースレターの送付、インターネットを活用した情報交換、それに留学後の研究活動に対する支援を求める意見もある。(資料F1参照)

F2) 鹿児島大学への留学後、あなたの元指導教員、研究室の仲間、あるいは他の留学生など、鹿児島大学の関係者との間で学術的なコミュニケーションや研究協力といった交流活動を行ったことがありますか？

- a) はい(行なったことがある) 87人
 b) いいえ(行なったことがない) 38 (125人回答)

F3) 質問2)で「a)はい」を選んだ方だけに伺います。

)現在に至るまで、交流活動を何回位行ったことがありますか？

- a) 1回だけ 11人
 b) 2～3回位 19
 c) 4～5回位 9
 d) それ以上 41 (80人回答)

)どのような交流活動を行いましたか？(複数選択可)

- a) 論文作成に関する指導を受けた。 33人
 b) 共同研究について話し合った。 55
 c) 人物の紹介・交流、あるいは鹿児島大学留学へのアドバイスに関することを行った。 25
 d) その他 22

F4) 質問2)で「b)いいえ」を選んだ方だけに伺います。鹿児島大学関係者との学術交流を行ったことがないのはなぜですか？

選択肢方式としたが、「c その他」とする者が多かった。交流がない理由について、主なものを示す。

- ・多忙で交流を行なう時間がない。
- ・今、やっている仕事は留学中の専門とは異なる分野。
- ・元指導教員が忙しく、連絡・相談しにくい。
- ・当時の指導教員が退職、所属していた研究室に知り合いがいない。

G あなたの日本に対する興味・関心について

G1) あなたは、日本のどのような分野について興味・関心を持っていますか？

	いいえ		はい	
	1	2	3	4
)政治、社会、教育制度	1	2	3	4
平均 3.1(110人回答)				
)科学技術、研究開発	1	2	3	4
平均 3.7(129人回答)				
)自然環境、風土	1	2	3	4
平均 3.4(116人回答)				
)日本語と日本文化	1	2	3	4

平均 3.5(112人回答)

)経済、企業活動

1 2 3 4

平均 3.0(100人回答)

G2)日本について、あなたは今、どのような考え方を持っていますか？ご自由に記入してください

日本に対する関心について、科学技術・研究分野が比較的高い。

日本に対する考え方について、途上国出身者が多いこともあるが、先進国の発展を参考にしたいという考え方が見られる。(資料G2参照)

メールマガジン登録希望の状況

132人中122人がメールマガジン登録を希望している。

昨年11月に試行でメールマガジン第1回を作成し送付したが、メールマガジンによる元留学生ネットワークの構築が必要であろう。

(資料)

鹿児島大学元留学生フォローアップ調査票

(調査の目的)

鹿児島大学国際戦略本部では元留学生の方を対象にアンケート調査を行うことにしました。

この調査は、元留学生の方、一人一人が本学での留学経験についてどの程度満足しているか、留学した目的・目標が達成されたか、あるいは現在の生活で留学の成果がどの程度役立っているかなどについて、みなさまの考え方などを総合的に調査するものです。

この調査で得られたデータは、留学生のニーズに合ったカリキュラム開発、留学生支援体制の改善、鹿児島を離れた元留学生に対する支援活動の在り方などについて、本学で検討するための基礎資料として、積極的に活用していく予定です。

なお、みなさまの個人情報は厳重に管理されます。調査目的以外に使用されることはありませんので、よろしくご協力お願い申し上げます。

鹿児島大学国際戦略本部

回答提出先

鹿児島大学国際戦略本部プログラム・オフィサー / 准教授

有澤 尚志 (アリサワ ナオシ) 【調査責任者】

住所 〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21 - 24

電話 (81)-099-285-7088

F A X (81)-099-285-7083

E-mail arisawa@ms.kagoshima-u.ac.jp

留学生センターからのメッセージ

みなさん、おひさしぶりです。元気ですか。みなさんが鹿児島をはなれて、長い年月が過ぎました。その間、鹿児島大学では国際化が進み、現在では留学生330人が世界各国から来ています。留学生センターや国際戦略本部などもできました。このアンケートは、みなさんの母校である鹿児島大学が今後ますます発展できるように、みなさんの意見をおうかがいするために作成したものです。どうぞご自由に意見をお寄せください。みなさんが元気で、それぞれの分野で活躍していらっしゃることを心から祈っています。

留学生センター長 大嶋 真紀

(記入上の注意)

- 1 2007年 月 日現在の内容を記入してください。
- 2 質問には4通りのタイプがあります。
 - a. 適切なものを選ぶ場合、数字を で囲んでください。複数回答可とあるときは、複数の回答を選ぶことができます。
 - b. 回答を簡単に書き込む場合、数字や文字の記入などです。
 - c. 記述式の場合、あなたの経験や意見を自由に書いていただくものです。日本語、英語のどの言語で回答してもかまいません。
 - d. 四段階評価の場合、質問に応じて、(そう思わない・いいえ)を1、(あまりそう思わない)を2、(まあそう思う)を3、(そう思う・はい)を4として、自分の考え方の程度に応じて をつけてください。

調査について質問がある場合は、調査責任者(国際戦略本部 有澤)までお問い合わせください。

A あなた自身について

- 1) 回答日 _____
- 2) あなたの母国(出身国) _____
- 3) 性別 a) 男性 b) 女性
- 4) 年齢
 a) 21 - 30 歳 b) 31 - 40 歳 c) 41 - 50 歳 d) 51 歳以上
- 5) 鹿児島大学の学生だったときの経歴

身 分	所属研究科 / 学部	期 間
学部学生	学部:	年から 年まで
大学院修士課程院生	研究科:	年から

		年まで
大学院博士課程院生	研究科:	年から 年まで
研究生、科目等履修生、その他		年から 年まで

B 留学した理由と選択について

1) あなたはなぜ、日本に留学したのですか(複数回答可)

- | | |
|---|---------------------------------|
| a | 日本政府の奨学金を得たから。 |
| b | 自分の専門分野の学習または研究をしたかったから。 |
| c | より高い学歴を得たかったから。 |
| d | 日本への留学が就職に有利だと思ったから。 |
| e | 日本の言語、文化について学びたかったから。 |
| f | 母国の教員、知人などから日本留学をすすめられたから。 |
| g | 日本以外の国への留学を希望していたが、その機会がなかったから。 |
| h | その他 () |

2) あなたはなぜ、日本の大学の中で鹿児島大学を選んだのですか?(複数回答可)

- | | |
|---|------------------------------------|
| a | 日本政府(文部科学省)または自国政府の決定による |
| b | 鹿児島大学の入学試験に合格したから |
| c | 指導教員がいたから |
| d | 協定校だから |
| e | 鹿児島は生活しやすいと聞いたから |
| f | 日本国内の他の大学への留学を希望していたが、その機会がなかったから。 |
| g | その他() |

3) 鹿児島大学に留学した結果、自分の目標を果たすことができましたか?(複数回答可)

- | | |
|---|--|
| a | 学位を得ることができた
学位: a) 博士 (Ph.D) b) 修士 (M.A./ M.S.) c) 学士 |
| b | 専門の勉強ができた。 |
| c | 日本語、日本文化を学ぶことができた |
| d | その他() |

4) あなたが初めて鹿児島大学に入学したとき、すでにどのような学歴をもっていましたか?

- | | |
|---|-------------------------------------|
| a | 高校を卒業していた。 |
| b | 大学の学部を卒業していた、あるいは学士号(Bachelor)を得ていた |
| c | 大学院修士号(M.A.または M.S.など)を得ていた |
| d | その他() |

C .あなたが鹿児島大学の学生だったときのことについて

1) あなたが受けた学部または大学院の授業・講義全体について、どのように思いましたか?

そう思わない	そう思う
--------	------

)内容が充実していた		1	2	3	4
)理解しやすかった		1	2	3	4
理由:					
2) 鹿児島大学の施設や留学生への支援について、どのように思いましたか?					
		そう思わない		そう思う	
)教育や研究のための施設はよかった。		1	2	3	4
)チューター制度のような留学生への教育支援はよかった。		1	2	3	4
)留学生に対する日本語、日本文化の教育はよかった。		1	2	3	4
)留学生に対する事務サービスはよかった。		1	2	3	4
理由:					
3) 鹿児島大学の学生だったときの経済的状況について					
		いいえ		はい	
)当時、経済的に苦しかった		1	2	3	4
)あなたは何かのアルバイトをしたことがありましたか? a) はい(あった) b) いいえ(なかった)					
「a)あった」と答えた方だけに伺います。アルバイトに多くの時間を取られ学習・研					
究の時間が不足するようなことがありましたか?		いいえ		はい	
		1	2	3	4
4) 日本語が不十分なため不便を感じたことがよくありましたか?					
		1	2	3	4
理由:					
5) 鹿児島の風土や人々について良い印象をもちましたか?					
		1	2	3	4
理由:					
6) 鹿児島について、あなたが思ったこと、感じたことについて自由に記入してください。					

7) 全体的にみて鹿児島大学に留学してよかったと思いますか？			
		そう思わない	そう思う
		1	2 3 4
理由：			
8) 鹿児島大学の留学生への教育・サービスについてのご要望、ご提案があれば、おねがいします。			
____ 次の2つの質問は、大学院生であった方だけ教えてください。			
9) あなたの指導教員についてどのように思いましたか？			
		そう思わない	そう思う
) 指導内容が充実していた		1	2 3 4
) 指導がていねいで理解しやすかった		1	2 3 4
) 指導教員と主に何語で話していましたか？			
		a) 日本語	b) 英語 c) その他の言語
理由：			
10) 鹿児島大学では修士または博士の学位を取ることが難しかったですか？(両方の学位を取った方は、両方に回答してください)			
		難しかった	易しかった
) 修士の学位を取ったとき		1	2 3 4
) 博士の学位を取ったとき		1	2 3 4
理由：			

D あなたが現在住んでいる国などについて伺います。

1) 鹿児島大学に留学した後、現在に至るまで、あなたはどの国*に住んでいましたか？

*日本を含む

No.	国	期 間
1		年から 年まで/現在まで
2		年から 年まで/現在まで
3		年から 年まで/現在まで

4		年から	年まで/現在まで
---	--	-----	----------

2) あなたの母国で、鹿児島大学留学の経験や成果を積極的に活用することを考えている、あるいはそうした予定がありますか？

a 考えている / 予定がある

(どのような分野の経験や成果を活用したいか、ご自由に記入してください。例えば、研究成果、日本語能力、鹿児島での生活経験など)

(それを母国で活用するに当たって、支障あるいは問題点と思われるようなものがありましたら、ご自由に記入してください。)

b 特に考えていない / 予定がない

理由:

3) あなたの母国あるいは現在住んでいる国(日本を除く)と、日本との国際交流・国際協力活動に参加・協力したいというご希望がありますか。

a 希望がある

(どのような分野の国際交流・国際協力活動を希望されているか、ご自由に記入してください。例えば、国際共同研究、留学生への支援、文化交流など)

b 特に希望していない

理由:

E あなたの現在の職業について

1) あなたの現在の職業は何ですか？1つだけ選択してください。	
a	学生
b	会社員
c	研究者 / 大学教員
d	公務員
e	小・中・高等学校などの教員
f	医療関係
g	その他()
2) 現在の職業を選んだのはなぜですか、次のうちから当てはまるものを選択してください。(複数選択可)	
a	自分の専門分野の知識・経験が仕事に活用できるから
b	高い待遇ないし安定した収入が得られるから
c	将来有望な業種で自分の能力開発にも役立つから
d	日本語の能力または日本の事情に関する知識が仕事に活用できるから
e	職場の所在地、環境が自分にとって好都合だから
f	世間や社会の評判が高いから
g	知人や血縁者がいるから
h	その他()
3) 質問1)で「a:学生」以外を選択した方だけに伺います。)現在の仕事についてから、どれくらいの期間になりますか？	
a	1年以下
b	1年～3年
c	3年～5年
d	5年以上
)現在の仕事に満足していますか？	
	不満足 満足
a	給与または収入
b	仕事の内容
c	職場における地位
d	人間関係
e	全体的に
)鹿児島大学留学の経験や成果が現在のあなたの仕事に役立っていると思いますか？	
	いいえ はい
a	留学で得た知識・経験が今の仕事に役立っている。
b	鹿児島大学で得た学位が職場における地位や給与などの待遇において高く評価されている。
c	日本語の能力または日本の事情に関する知識が自分の仕事に役立っている
d	留学を通して得た人脈が自分の仕事に役立っている。

F 留学後における鹿児島大学との学术交流活動に関することについて伺います。

H. その他、何かつけ加えることがありましたら、ご自由に記入してください。

--

ご協力ありがとうございました。

なお、元留学生の方を対象にメーリング・リストを作成し、鹿児島大学からの情報を流すと共に、みなさまとの交流の場を設けることを考えております。

もし、差し支えないようでしたら、あなたの氏名、連絡先、メール・アドレスについて下の欄にご記入いただけたら大変、ありがたいです。

なお、ご記入いただいた方の氏名等の情報は国際戦略本部で厳重に管理し、本人の許可なく、学内及び学外の第三者には漏らさないことを約束いたします。

(メーリングリスト希望者のみ)

氏名	
連絡先住所	
E - mail	@